

# 国文学研究資料館報

第44号

平成7年3月

## 国際学術研究報告

平成六年度より、三ヶ年の予定で、科学研究費補助金による国際学術研究「国文学データベースの学術情報網による国際共同利用に関する研究」がスタートした。本プロジェクト研究の計画と今年度の研究成果の概要を報告する。

### 〈研究目的〉

最近、海外において日本研究の高揚化に伴い、研究や日本語教育において基礎的な資料としての文献や古典テキストのデータベースの需要が高まっている。とくに、欧米では大規模なテキストデータベース、電子化辞書、文章解析システム等の研究開発が発展し、文学はもとより、多くの領域に渡ってこれらを利用することが常識となってきた。

しかしながら、わが国では人文科学分野でのコンピュータ活用は

始まったばかりであり、国際的に公開・提供されている日本語によるデータベースも殆ど無いに等しい。

本研究では、国文学研究資料館に蓄積する各種の国文学データベースを、学術情報ネットワーク等を用いて、欧米のコンピュータ環境に提供し、かつ活用するための諸方策を調査・研究し、欧米からの要請に 대응することを目的とする。

具体的には、欧米に数ヶ所の拠点を設け、データベースの提供とその共同利用の方式についての技術上、運用上の諸問題を調査研究し、可能な限り実証実験を行う。さらに、欧米ではテキスト処理技術に関する先進的な研究成果の蓄積があり、日本古典テキストへの適用性について調査研究する。

一	国際学術研究 安永尚志……………1
次	講演会報告……………2
	杉浦梅潭文庫の受贈……………2
	国文学とコンピュータシンポジウム……………3
	文庫紹介①……………3
	文庫紹介②……………3
一	新収資料紹介③……………4
	新収和古書抄……………5

	「セミナー原典を読む」刊行……………5
	楽報……………6
	影印叢書の刊行……………7
	第十八回国際日本文学研究会……………8
	データベースのサービス時間延長……………8
	利用者へのお知らせ……………9
	平成7年度春季学会……………10

### 〈研究経緯〉

平成六年度は、三次に渡る調査研究として実施した。

#### ①第一次基本調査研究（欧州）

コペンハーゲンで開かれた欧州日本文学研究集会（EJL）の協力を得て、海外における日本語処理、日本語データベースの実状や問題について調査し、まとめた。各国約四十名の研究者の協力を得た。

オックスフォード大学、ロンドン大学との共同研究について、基本計画をまとめた。

#### ②第二次基本調査研究（欧州）

オックスフォード大学で基本調査を実施した。同大学計算機センターの協力を得て、各カレッジから、直接国文学研究資料館へアクセスする技術を確立した。日本語処理システム環境は国文学研究資料館で用意し、実装した。また、日本語CD-ROM断本大系を、動作させることに成功した。

フランスでは、コレージュドフ

ランスにおいて、共同計画を進め、同様の接続実験を行い、成功した。また、フランス国立図書館が進める電子化計画や世界的にも新しい電子出版のための納本制度について調査研究した。同図書館が所蔵する貴重書奈良絵本等の電子化について、協議した。

イタリアでは、中心的な日本文学研究者約三十名から成る学会組織があり、これを母体とし、ベネチア大学に拠点を置く合意が得られた。なお、正保版本歌集二十一代集を素材として、同国のコンピュータ上での動作確認を行った。

#### ③第三次基本調査研究（平成七年三月実施予定）

米国、カナダ及びイギリスにおけるテキスト処理、テキストアーカイブの技術、及び実態の調査研究を行う。

（研究情報部 安永尚志）



## 講演会報告

## 第十七回夏期公開講演会

第十七回を迎えた夏期公開講演会を、平成六年度は、七月二十八日(木曜)・二十九日(金曜)の両日、当館大会議室において開催した。本年度のテーマは、前近代から近代への過渡期としての重要性にもかかわらず、従来や研究不足の感のあった幕末から明治初期にかけての時期に注目する意味で、「幕末から明治へ」とした。講師と演題は、左記の通りである(計四題)。

(二十八日)

・大西廣当館教授(整理閲覧部長)「幕末・明治の「絵」と「言葉」——錦絵から錦絵新聞へ」  
 ・森安彦当館教授(史料館長)「幕末維新期、庶民の識字力の展開——寺子屋・郷学・学制発布」(二十九日)

・谷川恵一高知大学助教授「明治初期の歴史叙述」  
 ・小島憲之大阪市立大学名誉教授「幕末・明治文学一斑——漢語的なものを中心として」

内容はこの時期の日本語・日本文学・文化のさまざまな様相に及び、研究者・学生・市民等、二日間て延べ約四百人に及ぶ参加者が

## 国文研—新しい動き①

## 「杉浦梅潭文庫」の受贈

このたび杉浦俊介氏(杉浦家当主、梅潭の曾孫)より、杉浦梅潭関係資料が当館に寄贈されました。杉浦梅潭旧蔵のコレクションで、寄贈者と相談の上、「杉浦梅潭文庫」と命名、今後、一括して整理、保存していくことになりました。

杉浦梅潭(名は誠。一八二六一—一九〇〇)は、幕末の幕臣で、洋書調所(のち開成所)頭取から目付、目付筆頭となり、幕府の外交方針決定の中枢に参画、その後最後の箱館奉行を務めました。維新後は、北海道に開拓使が設置されると、開拓権判官として再び函館に赴任、外国との外交折衝にあたりました。東京に帰った後、向山

黄村らと詩の結社「晩翠吟社」を起し、漢詩人として活躍しました。

熱心に耳を傾けていた。

## 第四十一回公開講演会

東京以外の都市で行うことが毎年の恒例となっている秋期の公開講演会を、本年度は、十月二十一日(金曜)午後、仙台市において開催した。会場は仙台市博物館

た。杉浦梅潭は勝海舟の漢詩の師としても知られ、勝海舟は「氷川清話」の中で、「詩は、壮年の時に、杉浦梅潭に習い」と述べています。

資料の内容は、日記・備忘類、詩稿類、書簡類、来簡・詩箋類、写真類、文具類など、約一、二〇〇点です。

全般的には、幕末・明治期の歴史・文学関係資料で、特に幕末から明治に至る日記は、最後の箱館奉行としての歴史的証言を含むもので、幕末・維新史、北海道史にとつて貴重な資料です。目付、箱館奉行の時代の日記は、それぞれ「杉浦梅潭 目付日記」「杉浦梅潭 箱館奉行日記」(杉浦梅潭日記刊行会、平成3年刊)として公開

ホール。講師と演題は、左記の通りである。

・錦仁秋田大学教授「平安後記の和歌観念」

・石田義光東北大学附属図書館専門員「狩野文庫——江戸文化の雛形——」

されていますが、明治期の日記は未刊行です。

来簡は、梅潭の漢詩人としての交友範囲の広さを示すもので、栗本鋤雲、木村芥舟、依田学海、岡本黄石、小野湖山、大沼枕山などの旧幕臣、著名な漢詩人からのものが多く、また勝海舟、伊藤博文、松浦武四郎のものも含まれています。これらは、これまで全く知られていなかった未公開、未紹介の新資料です。

当館では今後、これらの資料を整理し、館外の研究者を交えて共同研究を行うとともに、今年五月に、特別展示「杉浦梅潭と幕末・維新の漢詩人達」と公開講演会の開催を予定しています。

なお、資料類は一定の補修・整理期間を要するため、閲覧可能になるのは来年度以降の見通しです。

あいにくの雨と急な冷え込みにたたられて、一般市民の参加がやや少なかったのは残念であったが、和歌史分野の最先端の研究の報告と、東北大学の重要な蔵書である狩野文庫の総合的な紹介がなされ、有意義な会となった。

## 平成六年度「国文学とコンピュータ」シンポジウム(第六回) 報告

平成六年度「国文学とコンピュータ」シンポジウム(第六回)は、十二月九日に約百名の参加者の下で開催された。「新しい情報技術の展開における国文学研究を考える」というテーマで、五件の講演とパネル討論によるシンポジウムが行われた。プログラムの概要を以下に示す(敬称略)。

一 情報国文学の一路程―研究語彙の組織化について

藤原鎮男(国文学研究資料館)

二 国際接続・電子本・重点領域

安永尚志(国文学研究資料館)

三 インターネットにおける情報の共有

内藤昭三(NTTソフトウェア研究所)

四 SGM L―その基本的考え方

と本文データベース交換流通への適用可能性

石塚英弘(図書館情報大学)

五 資料目録/本文のSGM Lによるデータ記述と利用

原正一郎(国文学研究資料館)

なお、講演二はオックスフォード大学フィリップ・ハリース教授を予定していたが、急病のため変更された。

また、パネル討論は同一のテーマで、マイケル・ワトソン(明治学院大学)、中村康夫(国文研)両氏の司会により、パネラーに講演者を煩わせて、開かれた。

パネル討論は、新しい情報技術と国文学研究の接点について、多様な問題が出され、各種の観点から活発な討論が行われた。とくに、国文学研究にとって、マルチメディア情報の取扱いは疑似体験ではないかとの疑問が出されたが、本物に如くはないが、今まで出来なかつたことが容易に可能となるメリットの方が大きいことが指摘された。さらに、情報国文学は今後の課題であるが、ようやく国文学研究にとって好都合な研究環境が整い始めたのではないかという点で、国文学及び情報工学両者にとっての大きな期待となった。

なお、メーカー、出版社の協力を得て、関連する最新の製品や実験の展示やデモンストレーションがあり、盛況であった。(報告書は間もなく出版予定。)

(研究情報部 安永尚志)

山口県須佐町の益田家は、戦国期石見益田七尾城によつた豪族で、藩政時代は山口県阿武郡須佐を本拠として、一万三千石を領有した。藩初の財政改革を断行した二十代元祥(牛庵)より、幕末禁門の変で自刃した三十三代親施にいたる、萩藩の永代家老の家柄として知られる。

## 文庫紹介②

### 山口県須佐民俗資料館益田家蔵本

山口県須佐町の益田家は、戦国期石見益田七尾城によつた豪族で、藩政時代は山口県阿武郡須佐を本拠として、一万三千石を領有した。藩初の財政改革を断行した二十代元祥(牛庵)より、幕末禁門の変で自刃した三十三代親施にいたる、萩藩の永代家老の家柄として知られる。

同家に所蔵される歴史史料は中世より近代に至るまで、約一万点にも及び、質量ともに群を抜くものがある。現在、益田家史料の一部は東京大学史料編纂所に寄託されているが、昭和五十二・五十三年の両度にわたり、山口県教育委員会による益田家本・史料編纂所寄託本の総合調査がおこなわれ、「益田家歴史資料目録」にまとめられている。その後、益田家本は須佐民俗資料館に保管されている。

益田家史料は毛利博物館・岩国吉川家・阿弥陀寺などと並ぶ山口県下有数の歴史資料で、国文学関係資料としては、近世の連歌懐紙・和歌詠草などに見るべきものがある。

山口県教育委員会による調査は

文書を中心にしたもので、典籍については整理が充分でなかったが(整理番号がなかった)、昭和六十三年度より平成三年度にわたる梅光女子大学の宮田尚・渡辺憲司(当時)両氏による精力的な整理調査をきっかけにして、当館の調査と収集を行ない、調査カード約千点をとって一応調査を完了した。現在まで収集点数は百五十点で、継続中である。

なお、萩市立図書館には益田精祥寄贈和漢書二百部弱がある。また、所謂ディアクセションされたものを若干見受けるところがある。須佐民俗資料館への交通は山陰線須佐駅下車であるが、国道百九十一号線で萩市から車で約四十分である。

所在地 〒759-134 阿武那須佐町大字須佐 須佐民俗資料館  
電話 ○八三八七―六一二四四

(文献資料部 山崎 誠)



## 新収資料紹介 39

## 表白御草

表白御草卷子本一軸は、守覚法親王の表白を集めたもので、御は尊称、草は草稿の意であろう。東寺宝菩提院旧蔵本である。書写は建長六年（一二五四）、書写者は東寺の親快である。

本書は原装のままで、本文に欠失はない。雲母引き銀鼠色鳥の子表紙で、打付けて「表白御草」精録と題されている。見返しに目録があるが、本文の実際と若干の齟齬がある。料紙は斐紙で全紙二十紙継、全て四八四行を存する。本文には朱墨で傍訓・返点・合符・声点が施されている。紙背には裏書注が存する。奥書は次の通りである。

建長六年正月二十五日於遍智院書写之

東寺末葉親快

同年四月四日於仁和寺北長尾房逢于三位法印誦之加点了

兩度交合了

法印云此御草寺中猶以無披露

尤可秘藏之由々云

右によれば本書は守覚没の二十五年後に仁和寺理智院隆澄（三位

法印）の訓説にしたがって覚洞院法印親快が書写したものである。

本書には十五篇の表白が収められる。目録に無く実際には本文があるものを「」で示す。

観音院灌頂三昧耶戒表白

同表白

〔自謙〕

同初夜表白

同表白

同嘆徳返答

同嘆徳返答

大阿闍梨法印安元七年十二月日為

同乞戒導師表白為人作 行書作之

〔教化〕

宮御灌頂大阿闍梨表白

〔親覚法眼傳法灌頂大阿闍梨表白〕

仁隆律師傳法灌頂大阿闍梨表白

海惠律師傳法灌頂大阿闍梨表白

行宴法橋傳法灌頂大阿闍梨表白

覚演傳法灌頂大阿闍梨表白

賢清傳法灌頂大阿闍梨表白

隆憲傳法灌頂大阿闍梨表白

性我傳法灌頂大阿闍梨表白

傳法灌頂嘆徳返答予

これらの表白に現れる任覚・行宴

・官（道法）親覚・仁隆・海惠・

行宴・覚演・賢清・隆憲・性我ら

は守覚の付法（血脉類集記第七に

よる）で、自ら大阿闍梨として伝

法灌頂に臨んだ際の表白（三昧耶戒儀・初夜儀・後朝嘆徳儀）である。

本書には現在までのところ、次の傍巻が知られている。ともに親快書写（建長六年）本である。

・東寺宝菩提院旧蔵本

〔外題〕「表白御草上」灌頂 結縁灌頂 堂供養

〔自謙〕

御室御灌頂初夜表白故御室 仁安三年四月

観音院結縁灌頂初夜表白仁安三年 十二月十四日

同初夜表白

同嘆徳御返答

伝法灌頂初夜表白仁性律師

同灌頂初夜表白実任法眼

八條院御堂供養表白

上西門院北山三昧堂供養表白

・岩瀬文庫蔵柳原文庫旧蔵本

〔外題〕「表白御草中」堂供養 尊勝院 尼供養 御修法

〔自謙〕

八条院常盤御堂供養表白

院尊勝陀羅尼供養表白

高倉院尊勝陀羅尼供養表白

公家孔雀経御修法表白

中宮孔雀経御修法表白

同結願事由

院孔雀経御修法表白

同結願事由

公家愛染王御修法表白

法皇愛染王御修法表白

明示され（後筆）、岩瀬文庫本も中巻であること明らかであるが、内容的には本書・宝菩提院本・岩瀬文庫本の順序に繋がるものと考えられる。本書の出現により、守覚法親王自草の表白集の全貌が明らかになり、「十二巻本表白集」の原資料であることが判明するに至った。また全文に施される訓注は、自記に由来するものであるかどうか俄には断定できないものの、守覚法親王の文藻を物語る貴重な資料である。本書中に見られる教化一篇も声明資料として貴重であり、背記の勘注に引かれる内外典（一連の公家仁王会咒願文佚文〈敦基・敦光・隆頼・維時・長谷雄・直幹・茂明・文時・元夏〉がとりわけ注目される）にも興味深いものが多い。

本書の価値について、「守覚法親王の儀礼世界―仁和寺蔵紺表紙小双紙の研究―」を参観されたい。『国書逸文研究』第十六号に岩瀬文庫本の翻刻・紹介がある。

（文献資料部 山崎 誠）

## 新収和古書抄

—平成六年—

## 古今和歌集 版本三九点

古今集の整版本は従来の研究では二十九種とそのヴァリエーションが七十五種あることが確認されている。今回収蔵された中には延宝四年大坂河内屋理兵衛版など若干の新種、新亜種も含まれる。これまで当館が所蔵していた二十九点（無刊記本、同版本）を併せると、二十四種を収録したことになる。

## 自讃歌 写本一帖

新古今期の代表歌人十七名の自讃歌と称する歌を各人十首計百七十首に集成した歌書。古くは後鳥羽院撰とされたが、それより百年後、為世あたりの成立とされる。伝本は百以上かと推定され、宗祇抄や堯孝注他数十種の注も流行した。本書は縦二九・五、横二一センチの袋綴、墨付き十四丁一冊。

外題、序、識語の類は一切なく、一丁裏の目録からいきなり始まる。定家と有家の歌順が入れ替っている点や他の細部の移動を勘案すると、比較的古活字版の宗祇注のそれに近いが、なお違いが残る。表と裏に付された間に合わせの仮表

紙に「后鳥羽院御製自讃歌 全」

「明治三十 六月 楓莊散人脩之」  
「正筆徹書記真蹟 恒川淡水翁鑑定 明治三十二年七月又四」とあり、正徹の筆とはいま断言できないが、本文は室町期には遡りうる筆である。

狂言記 刊横本五冊

刊記「元禄十二卯霜月吉日／堀河六角下 八尾平兵衛／寺町松原上

菱屋治兵衛」。元禄十二年刊狂

言記は、野田弥兵衛・八尾平兵衛・野田重兵衛版が知られている。

本書は、京・江戸の両野田を削つて菱屋の名を加えた後刷本。菱屋治兵衛は観世流の謡本や部分謡本も覆刻している。

下手談義聴聞集 五卷五冊

臥竹軒 撰。宝暦四年刊。宝暦三年跋。書肆、松栢堂（日本橋通

堂町目）。彫工、田代一瓢。

百人一首和歌始衣抄 刊本一冊

山東京伝作になる百人一首の戯注で、「はついでしう」と読む。

家持以下雅経の十七名が対象。天明七年刊（漢文自叙および巻末識語）。京伝の画名「政演画」と落

款の入った見開き挿絵は鈴木重三によって奥村政信画の絵入本「千載和歌集」の一構図のもじりであることが指摘されている。中本袋綴。表紙は黒ずんだ草色に空押で葵草の紋様あり。剝奪した題簽がわずかに残る。本紙虫食は補修済み。他本に見える巻末蔵版目録は無く、代りに匡郭を変え「珍しき

新板諸所追々出来申候御求メ御覧可被下候／江戸通油町書林 葛屋重三郎」とある。蔵書印「玖侶社記」「森氏」等あり。

葵氏艶譜 上中下三冊 大木

彩色画譜。葵氏描けるところの難波新町の四季折々の生活を軽妙に描いたもの。四条派風の絵見開三十一図片面四図、発句を見開六丁百九首収む。本書は再版本で、享和三年生瑞馬序に、ちぬ翁の再版序を加える。文化十二年大阪の富田屋、藤屋、河内屋の版。「けんふる」の蔵書印あり。

新聞錦絵

明治期の新聞記事を抄録し、事件を図解する錦絵と共に一枚刷りにして刊行したもの。東京日々新聞・横浜毎日新聞・郵便報知新聞・かなよみ新聞・教会新聞の錦絵版。全一七点。

## 国文研—新しい動き②

## 「セミナー—原典を読む」刊行

当館では、平成五年夏より「原典講読セミナー」を開講している。これは今後も継続の予定で、本年夏にも開催される。

セミナーの講義については、平凡社から「セミナー—原典を読む」が、刊行されている。

既刊分は次のとおり。

「浮世風呂・浮世床—世間話の文学」—本田康雄著

「書秘伝—入木道の古典を読む」—新井榮蔵著

「千載集—勅撰和歌集はどう編まれたか」—松野陽一著

「古文書が語る近世村人の一生」—森安彦著

定価は各二千円で、市販されている。

また、本年中に次の書が刊行される予定である（順不同・表題は仮題）。

「三十一字」佐竹昭廣著

「一休伝承」岡雅彦著

「百人一首」松村雄二著

「コンピュータ国文学論」安永尚志著

「蚕種業者の洋行日記」丑木幸男著

彙報

委員会記録

平成6年

10月20日

国文学文献資料調査  
員会議(北海道・東  
北地区)

11月4日

国文学文献資料調査  
員会議(中国・四国  
地区)

11月10日

国際日本文学研究集  
会委員会(第二回)

12月14日

共同研究委員会(第  
二回)

12月22日

国際日本文学研究集  
会委員会(第三回)

平成7年

2月2日

国文学文献資料収集  
計画委員会(第二回)

2月8日

共同研究委員会(第  
三回)

2月10日

情報システム委員会  
(第一回)

2月23日

古典籍総合目録委員  
会(第一回)

評議員会の開催について

本年度第二回評議員会が平成七  
年三月十五日(水)に開催され、  
議事は、管理運営の概況、平成七  
年度予算内示及び科学研究費補助

金並びに平成七年度事業計画につ  
いて評議が行われた。

運営協議員会の開催について

本年度第二回運営協議員会が平  
成六年十二月二十七日(火)に開  
催され、会長に松野運営協議員が、  
副会長に有吉運営協議員がそれぞ  
れ就任した。議事は、教官人事及  
び管理運営の概況について協議が  
行われた。

本年度第三回運営協議員会が平  
成七年一月二十日(金)に開催さ  
れ、議事は、教官人事並びに平成  
七年度予算内示及び科学研究費補  
助金について協議が行われた。

本年度第四回運営協議員会が平  
成七年二月二十二日(水)に開催  
され、議事は、教官人事、管理運  
営の概況及び平成七年度事業計画  
について協議が行われた。

外国出張

松野 陽一  
渡航先 オランダ王国、アイ  
ランド、フランス  
共和国、ベルギー王

岡 雅彦  
和 田 恭幸  
渡航先 オランダ王国、フラ  
ンス共和国、ベル  
ギー王国

安永 尚志  
渡航先 連合王国、フランス  
共和国、イタリア

松村 雄二  
中村 康夫  
原 正一郎  
渡航先 連合王国、フランス  
共和国

目的 在欧州古典籍資料の  
所在に関する調査と  
研究のため  
期 間 平成6年9月5日

平成6年9月17日

目的 在欧州古典籍資料の  
所在に関する調査と  
研究のため

期 間 平成6年9月5日

目的 連合王国、フランス  
共和国、イタリア  
の学術情報網による  
国際共同利用に関する  
研究のため

期 間 平成6年10月18日

目的 学術情報網による  
国際共同利用に関する  
研究のため

期 間 平成6年11月6日

目的 学術情報網による  
国際共同利用に関する  
研究のため

期 間 平成6年10月18日

目的 学術情報網による  
国際共同利用に関する  
研究のため

期 間 平成6年10月18日

平成6年10月30日

目的 フランス共和国  
の学術情報網による  
国際共同利用に関する  
研究のため

期 間 平成6年11月18日

目的 アメリカ合衆国、ド  
イツ連邦共和国  
古い著作物を計算機  
で扱うためのマルチ  
メディアデータモデ  
ルの研究のため

期 間 平成7年1月4日

目的 アイランド  
在欧州古典籍資料の  
所在に関する調査と  
研究のため

期 間 平成7年2月20日

目的 フランス共和国、連  
合王国、イタリア

期 間 平成7年2月27日

目的 フランス共和国、連  
合王国、イタリア

期 間 平成7年2月27日

目的 国文学データベースの学術情報網による国際共同利用に関する研究のため

期間 平成7年3月12日～平成7年3月26日

原正二郎

渡航先 カナダ、アメリカ合衆国

目的 国文学データベースの学術情報網による国際共同利用に関する研究のため

期間 平成7年3月13日～平成7年3月27日

海外研修旅行

山田 哲好

渡航先 中華人民共和国

目的 ESTICA(ICA東アジア部会)主催「史料管理の自動化に関するワークショップ」参加及び基調報告のため

期間 平成6年10月23日～平成6年11月6日

安藤 正人

渡航先 スロベニア共和国

目的 アーキビスト養成国際シンポジウム及び

ICA/SAE 委員会出席のため(国際文書館評議会専門職教育養成委員会主催)

期間 平成6年10月25日～平成6年10月31日

武井 協三

渡航先 連合王国

目的 日本演劇についての研究

期間 平成7年2月16日～平成7年5月21日

文部省永年勤続者表彰

文部省永年勤続者表彰規程に基づき、次の方に表彰状を傳達し、記念品として銀盃を贈呈した。

○平成6年11月23日付

森澤 良水(管理部長)

人事異動(平成6年9月～平成7年2月)

○平成6年10月1日付

(併任解除)

松野 陽一(文献資料部長)

岡 雅彦(文献資料部第三文獻資料室長)

松野 陽一(文献資料部第四文獻資料室長)

(併任)

岡 雅彦(文献資料部長)

(次頁へ続く)

国文研―新しい動き③

影印叢書の刊行

当館では、国文学に関する文献資料として、原本(写本・版本)を対象にマイクロフィルムによる撮影、収集を行うとともに原本の収集を行い、広く研究者の利用に供しています。

原本のうち、特に資料的価値の高いと認められる資料を選んで「貴重書」に指定し、その保管・利用にあたっては、慎重な取り扱いをしており、現在、八〇点が貴重書に指定されています。

しかし、保存と利用という対立する事柄を両立させることは極めて困難で、稀少で重要な資料は利用も多く、損傷、磨耗、劣化の進行は避けられません。

そこで当館では、原本の損耗防止、保存と利用の両立を図ることを目的として、影印本による副本を作製、「国文学研究資料館影印叢書」の名称で、今後継続的に刊行していくことになりました。

このたび汲古書院より、その第1巻として、井原西鶴「好色一代男」が刊行されました。

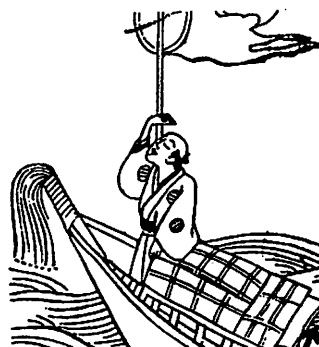
当館蔵「好色一代男」は、天和二年、大坂思案橋「荒砥屋孫兵衛

可心板」の刊記を持つ、いわゆる「大坂版」の初刷といわれているものです。現存する「好色一代男」のなかで、最も美しいとされている本で、すでに新潮日本古典集成版「好色一代男」の底本としても使われています。

本書の内容は、刊行に当たって(佐竹昭廣館長)、口絵写真(カラー二葉)、本文影印、解題(松田修当館名誉教授)から成り、B5判、函入、三七五ページ、定価六、五〇〇円です。

今後は、当館所蔵の貴重書の中から書目を選定、隔年で刊行していく予定です。

なお、購入御希望の方は、汲古書院(〇三―三二六五―九七六四)まで、お問い合わせください。



(前頁より)

鈴木 淳 (文献資料部第三文  
献資料室長)岡 雅彦 (文献資料部第四文  
献資料室長)名子喜久雄 (文献資料部助教)  
(山形大学教育学部助教教授か  
ら)○平成6年10月1日～平成7  
年3月31日)

○平成6年12月16日付

(転出)

三浦 弘三 (会計課総務係総務  
主任)(東京大学医学部附属病院分  
院司計掛主任へ)

○平成7年1月1日付

(採用)

## 第十八回国際日本文学研究集会報告

第十八回国際日本文学研究集会  
は、昨年十一月十日十一日の両日  
に開催された。研究発表と公開講  
演は次のとおりである。(「国際日  
本文学研究集会会議録」第十八  
回)に収録の予定。○フランス語訳から見た井原西鶴  
畑中千晶 ○太平記の死の様相と  
論理 崔文正 ○西洋詩歌と和歌  
の無常観 アレクサンドル・ドー

大久保武史 (会計課総務係)

## 平成7年度 共同研究

○「論義法会の総合的研究」

代表永村貞 (日本女子大学教授)

○「杉浦梅潭関係資料に関する基  
礎的研究」

代表宮崎修多 (成城大学講師)

○「源氏物語の梗概書類の研究」

代表渡辺久寿 (山梨英和短期大  
学教授)

○「万葉一葉抄の総合的研究」

代表岩下武彦 (東京女子大学教  
授)○「日本文学の特質―近松時代浄  
瑠璃の研究―」代表アンドリュウ・ガーストル  
(ロンドン大学教授) (予定)

リン ○「怪しい神」に誘われて

―「蓬萊曲」の「鬼」を説む―

蘭明 ○永井荷風と「紅楼夢」

呉佩珍 ○近代日本の修辞学研究

の特質―その一つ西洋の修辞学変

遷の再現―マッシミリアノ・

トマシ ○幕末・明治期の「夢

求」 相田満 ○写本「魯齊亞國

睡夢談」について 生田美智子

○昌平裴北寮殺人事件 ロバート

## 国文研―新しい動き④

データベースのサービス  
時間延長実験について平成六年十二月六日(火)から  
平成七年三月二十四日(金)の間、  
現在公開している国文学データ  
ベースのサービス時間を一時間延  
長します。平常は十六時三十分  
終了しますが、これが十七時三十  
分に延長されます。利用者の皆様のご要望に依って、  
近い将来二十四時間運転を実現す  
ることを目指して、基礎データの  
収集を行うための基本実験として  
計画しました。よろしくご協力お  
願いします。実験と言っても、普段と何ら変  
らない利用が出来ます。おおいに  
ご利用下さい。大型コンピュータを二十四時間  
運転するためには、難しい問題が  
多々あります。一つずつ解決しな  
がら実現の努力を続ける必要があ  
ります。平成六年六月に、皆様の協力を  
得て、約一カ月間一日三時間半の延長運転の実験を行いました。一  
カ月間の実験はたいへん短いも  
でしたが、その時の特徴的な結果  
の一つに、延長時間帯の中で利用  
のピークが十七時頃に現れるとい  
うことが分かりました。このことから、十七時を含む時  
間延長は大きな効果があると判断  
されます。そこで、今回は三時間  
に及ぶ延長を長期に続けるには準  
備不足であることから、一時間の  
延長を四カ月間続けてみることに  
致しました。

どうぞご利用下さい。

なお、二月一日(水)と三月一  
日(水)は、従来どおりの終了時  
間十六時三十分となります。お問  
い合せなどは、当館情報処理係で  
申し受けます。また、本年も継続申請の時期に  
なって参りました。継続の手続きを  
お早めにお願ひします。

(情報処理室・データベース室)

・キャンベル ○「英日国文学研  
究語彙リスト」の作成を試みて―  
東西の比較― 藤原鎮男 ○わがごとくわれを思はん人もがな―中  
世フランスから見た王朝の「恋」  
―ロイヤル・タイラー



## 利用者へのお知らせ

◆西尾市立図書館(岩瀬文庫)の名称およびサービス区分の変更について

このたび、西尾市立図書館(岩瀬文庫)の名称が西尾市岩瀬文庫となりました。これは、岩瀬文庫が西尾市立図書館から西尾市教育委員会の管轄になったことによるものです。これに伴いマイクロ資料のサービス区分も変更になりました。今までは事後報告を条件に紙焼写真・電子複写可(サービス区分B)でしたが、今後は西尾市教育委員会に事前に許可願を提出すること(サービス区分D)となりました。ご承知おきください。

なお、これに該当する岩瀬文庫の資料は『マイクロ資料目録一九八四年』(第8冊)および『同一九九三年』(第17冊)に収録されています。文庫番号は214です。

◆国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録一九九四年』(第18冊)刊行のご案内

収集したマイクロ資料のうち、この一年間に整理が終了した二二

所蔵者(文庫)分、六、〇五七点をとりまとめ冊子体にしたものです。収録所蔵者名、文庫番号は次のとおりです。今回新たに収録された七所蔵者には\*印を付けました。

文庫No	所蔵者
11	京都大学文学部(頼原文庫)
16	北海学園大学附属図書館(北祝文庫)
20	宮内庁書陵部
25	東京都立中央図書館
26	酒田市立光丘文庫
33	東洋文庫
49	岩国徴古館
88	東京芸術大学附属図書館
99	高知県立図書館(山内文庫)
225	University of California, Berkeley
229	鶴岡市郷土資料館
277	園部町教育委員会(小出文庫)
278	大須文庫
305	愛知県立大学附属図書館
306	*宮城学院女子大学附属図書館
308	*柿術文庫
314	*山寺芭蕉記念館

319 \*白鹿記念酒造博物館

\*8 温泉寺

\*4 \*香川某家

\*5 \*松野陽一

\*6 \*益田家

◆マイクロ資料目録の市販について

【国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録】は、発行部数が少ないため、一部の機関にしか配布できないのが現状です。そこで、縮刷版を別途刊行し市販しています。第十七冊目の一九九三年版が、二月に発行されました。(笠間書院刊、定価七、〇〇〇円)

◆当館所蔵資料の翻刻掲載、写真掲載について

当館所蔵資料を翻刻して出版物に掲載する、あるいは所蔵資料の写真を出版物等に掲載する場合は当館の許可が必要です。所定の申請用紙に記入のうえ、情報サービス係に提出してください。

なお、寄託資料やマイクロ資料については、寄託者あるいは原資料所蔵者の許可を得てください。

◆利用案内

利用資格

学校の教員および調査研究機関の研究者、大学および大学院の学生、その他

閲覧時間

九時～十七時

資料請求受付時間

九時半～十二時、十三時～十六時

時半

文献複写受付時間

九時半～十五時半

休室日

日曜日、土曜日、祝日、振替休日、毎月末日(日、土の場合は直前の金曜日)、四月末～五月上旬五日間、十二月二十七日～一月五日、三月二十五日～三月

三十一日、その他

来館できない場合

大学図書館等を通じて申し込み

ば閲覧(資料は限定されます)および文献複写ができます。また、個人が郵送で文献複写の申し込みをすることができます。

詳細は情報サービス係にお問い合わせください。

平成7年度

## 春季学会

①事務局 ②学会開催日 ③会場

解釈学会 ①〒170豊島区北大塚3-29-2 教育出版センター内03-5394-1203 ②8月25日 ③国文学研究資料館

歌舞伎学会 ①〒169新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②5月14日 ③江戸東京博物館

訓点語学会 ①〒192-03八王子市東中野742-1 中央大学文学部国文学研究室内0426-74-3789 ②5月26日 ③龍谷大学

芸能史研究会 ①〒606京都市左京区浄土寺真如町77 紫雲荘6号室075-761-8718 ②6月11日 ③京大会館

国語学会 ①〒113文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内03-3812-2111 ②5月27・28日 ③龍谷大学

古事記学会 ①〒150渋谷区東4-10-28 國學院大学文学部日本文学第二研究室内03-5466-0215 ②6月17・18日 ③関東短期大学

上代文学会 ①〒102千代田区紀尾

井町7-1 上智大学文学部国文学研究室内03-3238-3637 ②5月20~22日 ③宮城学院女子大学

昭和文学会 ①〒101千代田区猿樂町2-2-5 笠間書院内03-3295-1331 ②6月3・4日 ③國學院大学

説話・伝承学会 ①〒602京都市上京区今出川通烏丸東入 同志社大学国文学研究室内075-251-3421 ②4月29・30日 ③同志社大学

説話文学会 ①〒228神奈川県相模原市文京2-1-1 相模女子大学学芸学部国文学科志村有弘研究室内0427-42-1411 ②6月24・25日 ③大谷大学

全国大学国語教育学会 ①〒305つくば市天王台1-1-1 筑波大学教育学系人文科教育学研究室内0298-53-6732・6733 ②8月2・3日 ③筑波大学附属小学校

中古文学会 ①〒156世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部国文学研究室内03-3329-1151 ②5月27・28日 ③日本大学文理学部

日本演劇学会 ①〒169新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②5月21・22日 ③共立女子大学

日本歌謡学会 ①〒630奈良市高畑町奈良教育大学真鍋研究室内0742-27-9153 ②5月13・14日 ③獨協大学

日本近世文学会 ①〒162新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部谷脇理史研究室内03-3203-4141 ②6月3・4日 ③立教大学

日本近代文学会 ①〒113文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国文学研究室内03-3812-2111内3818 事務取扱①〒113文京区本駒込5-16-9学会センターC21日本学会事務センター内03-5814-5810 ②5月27・28日 ③成城大学

日本口承文芸学会 ①〒192-03八

王子市南大沢1-1 東京都立大学中国文学研究室内0426-77-2145 ②6月3・4日 ③北海道大学学術交流会館  
日本国語教育学会 ①〒112文京区大塚3-29-1 日本教育研究連合会第3研究室内03-3941-3420 ②8月4・5日 ③国立教育会館虎ノ門ホール

社団法人 日本語教育学会 ①〒107港区赤坂1-8-10第9興和ビル内03-3584-4872~3 ②5月27・28日 ③学習院大学

日本社会文学会 ①〒101千代田区三崎町2-3-1 日本大学法学部寒河江・栗栖研究室03-5275-8764 ②7月上旬 ③札幌大学

日本比較文学会 ①〒573大阪府枚方市北片鉾町16-1 関西外国語大学阪上研究室0720-56-1721 ②6月3・4日 ③帝塚山学院大学

日本文学協会 ①〒170豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②7月2日 ③奈良女子大学

日本文学風土学会 ①〒359所沢市泉町1789 秋草学園短期大学国文学科研究室22 0429-25-1111 ②6月17・18日 ③東洋大学

日本文芸研究会 ①〒980仙台市青葉区川内 東北大学文学部国文学研究室内022-222-1800内2503 ②6月10・11日 ③東北大学

日本文体論学会 ①〒110台東区下谷1-5-34 三修社内03-3842-1711 ②6月中旬頃 ③未定

日本方言研究会 ①〒192-03八王子市南大沢1-1 東京都立大学国語研究室内 日本方言研究会幹事0426-77-2135 ①〒115北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事03-3900-3111 ②5月26日 ③龍谷大学

仏教文学会 ①〒654神戸市須磨区東須磨青山2-1 神戸女子大学内 ②6月10~12日 ③神戸女子大学

国文学研究資料館報 第四十四号  
平成七年三月発行  
編集・発行者  
国文学研究資料館

東京都品川区豊町一六一〇  
郵便番号 一四二  
電話 (三七八五) 七三三一 (代)  
印刷所 有限会社 スミタ